

薬物療法学

《担当者名》准教授/水野 夏実

【概要】

様々な疾患の病態生理学的背景や臨床経過を理解することは、薬物治療を実践するに当たって極めて重要である。
薬物療法学では、代謝・内分泌系及び泌尿器系の疾患について、その病因・病態を理解し、関連する薬物の薬理作用や薬物治療の理論的背景と合理的な医薬品の使用方法を学ぶ。

【学修目標】

日常遭遇する頻度の高い主な代謝・内分泌系及び泌尿器系の疾患・病態について列挙し、その病因・病態を理解し、薬物治療を行うに当たって必要な理論的根拠を説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|---------|--|-------|
| 1 | 腎疾患-1 | 慢性腎臓病、腎不全の発症メカニズム・病態を説明できる。 慢性腎臓病、腎不全の治療薬の作用メカニズムを説明できる。 慢性腎臓病、腎不全の治療薬の有害反応(副作用)を説明できる。 慢性腎臓病、腎不全の治療薬の疾患へ適用する根拠を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-13 1)~4) | 水野 夏実 |
| 2 | 腎疾患-2 | 糸球体腎炎、ネフローゼ症候群の発症メカニズム・病態を説明できる。 糸球体腎炎、ネフローゼ症候群の治療薬の作用メカニズムを説明できる。 糸球体腎炎、ネフローゼ症候群の治療薬の有害反応(副作用)を説明できる。 糸球体腎炎、ネフローゼ症候群の治療薬の疾患へ適用する根拠を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-13 1)~4) | 水野 夏実 |
| 3 | 内分泌疾患-1 | 甲状腺機能障害の発症メカニズム・病態を説明できる。 甲状腺機能障害の治療薬の作用メカニズムを説明できる。 甲状腺機能障害の治療薬の有害反応(副作用)を説明できる。 甲状腺機能障害の治療薬の疾患へ適用する根拠を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-6 1)~4) | 水野 夏実 |
| 4 | 内分泌疾患-2 | 副腎機能障害の発症メカニズム・病態を説明できる。 副腎機能障害の治療薬の作用メカニズムを説明できる。 副腎機能障害の治療薬の有害反応(副作用)を説明できる。 副腎機能障害の治療薬の疾患へ適用する根拠を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-6 1)~4) | 水野 夏実 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|-------------|----------------|---|-------|
| 5 ┆ 6 | 糖尿病 | 糖尿病の発症メカニズム・病態を説明できる。 糖尿病の治療薬の作用メカニズムを説明できる。 糖尿病の治療薬の有害反応(副作用)を説明できる。 糖尿病の治療薬の疾患へ適用する根拠を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-6 1)～4) | 水野 夏実 |
| 7 ┆ 8 | 脂質異常症・高尿酸血症・痛風 | 脂質異常症、高尿酸血症・痛風の発症メカニズム・病態を説明できる。 脂質異常症、高尿酸血症・痛風の治療薬の作用メカニズムを説明できる。 脂質異常症、高尿酸血症・痛風の治療薬の有害反応(副作用)を説明できる。 脂質異常症、高尿酸血症・痛風の治療薬の疾患へ適用する根拠を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-6 1)～4) | 水野 夏実 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験(筆記試験)(100%)で可否の判定を行う。

【教科書】

コンパス 薬物治療学 南江堂

パートナー薬理学 南江堂

【参考書】

薬が見える vol.2 代謝系の疾患と薬 内分泌系の疾患と薬、産婦人科系の疾患と薬、血液系の疾患と薬、免疫・炎症・アレルギー疾患と薬、眼・耳・皮膚の疾患と薬 MEDIC MEDIA

病気が見える vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 MEDIC MEDIA

病気が見える vol.8 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA

【備考】

定期試験対策として「中間テスト」または「定期試験対策テスト」またはその両方を実施予定
(成績評価対象外)

【学修の準備】

予習：次回の授業範囲の教科書を熟読し、講義の概要を把握しておくこと。関連する臓器、症候などについて機能形態学 I・II 並びに臨床医学概論の復習をしておくこと。(80分)

復習：教科書および配布したプリント、配布または Google ドライブにアップロードされた練習問題を活用して理解度を深めること。(80分)

【関連するモデル・コア・カリキュラム】

D 医療薬学

D-2 薬物治療につながる薬理・病態

D-2-6 代謝系・内分泌系及び骨の疾患と治療薬

1)代謝・内分泌系及び骨疾患、電解質異常の発症メカニズムを生体の恒常性と関連付けた上で、異常反応としての病態を説明する。

2)治療薬の作用メカニズムと病態を関連付けて説明する。

3)治療薬の作用メカニズムと有害反応(副作用)を関連付けて説明する。

4)疾患治療における薬物治療の一般的な位置づけ及び同種・同効薬の類似点と相違点を把握し、疾患へ適用する根拠を説明する。

D-2-13 泌尿器系の疾患と治療薬

1)泌尿器系疾患の発症メカニズムを生体の恒常性と関連付けた上で、異常反応としての病態を説明する。

- 2) 治療薬の作用メカニズムと病態を関連付けて説明する。
- 3) 治療薬の作用メカニズムと有害反応(副作用)を関連付けて説明する。
- 4) 疾患治療における薬物治療の一般的な位置づけ及び同種・同効薬の類似点と相違点を把握し、疾患へ適用する根拠を説明する。

【薬学部ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域のおよび国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

薬剤師

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関及び製薬会社での実務経験に基づいて、機能形態学・薬物療法学の知識を講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している